

地域住民の健康促進に向けた 認知・嚥下機能検査

学科・専攻： 関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻

担当 教員： 松尾 貴央、辰巳 郁子

連携先： 関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻

プログラム内容

柏原市総合フェスティバルの玉手山学園のブースに出店。「言語聴覚士による健康測定」と題し、来場者向けに認知機能、発声発語の検査、嚥下（飲み込み）やコミュニケーションに関する簡単な検査を実施しました。目的は、①来場者の健康チェックや健康への意識向上に役立てていただくこと、②本活動を通じた学生の成長を目的としています（医学的な診断は行いません）。教員同席のもと、授業や演習で学修した手技や知識を実際に施行し、小児から高齢者まで幅広い年齢の方々とのかかわりも体験的に学ぶ機会と考えています。

成果・考察

令和5年11月4日（土）に開催された柏原市民総合フェスティバルに参加しました。

言語聴覚学専攻学生12名（1年生6名、2年生5名）、教員2名が企画および運営に対応しました。当日は約120名の市民が言語聴覚学専攻のブースを訪れ、「脳」「聞こえ」「声」「嚥下（飲み込み）」などのブースをつくり、それぞれ検査を体験していただいた。参加者は家族連れも多く、特に声の大きさの測定では親子で楽しんでいただき、ご高齢の方には積み木を使用した検査や聞こえの検査に関心を持っていただきました。

それぞれの検査の実施や検査結果の説明は、教員の補助のもと学生が担当しました。

検査にお待ちいただく程の
大盛況！

呼び込みも頑張りました！
お立ち寄りいただいた理事長と
記念撮影



関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
辰巳 郁子 助教

開催準備に向けて、参加者呼び込みのために看板やうちわの作成、検査の練習など授業後に集まることで学年間の交流にもなりました。

開催当日は担当した学生たちは緊張しており、参加者へうまく説明できないこともありましたが、参加者とお話しさせていただく中で、笑顔になり、説明内容を工夫するようになり、集客の広報も積極的に呼びかけをするなど、地域の方々との交流の機会になりました。



関西福祉科学大学
リハビリテーション学科
言語聴覚学専攻 1年生
垣内 大地（2023.3.18現在）

初参加で心配でしたが、多くの方が検査に来てくださり説明をしっかりと聞いて検査を楽しんで受けてくださって、とてもやりやすい環境で検査することができました。検査や説明は相手に伝わりやすいように説明することがとても難しく苦戦することが多くありましたが先輩に助けを頂ながら検査ことが出来ました。

実際に検査を実践できたことは実技授業や実習にも活かせると思うので今回の経験はすごいものだったと感じています。